

春闘、規制緩和、働き方の3課題に取り組むことを確認

日本労働ペンクラブの15年総会は、2015年1月8日（木曜日）、日本記者クラブで開催された。当日は、11時から12時までが会員総会、12時半から来賓、招待者を迎えての懇親会だった。

総会出席者は、81人（会員）、新年懇親会には145人（会員十 外部招待者）で懇親会参加者数は昨年の121人を大きく上回った。

▼3つの課題

総会は、冒頭、稲葉康生代表が開会のあいさつ。「今年は、3つの労働問題の課題があります。まず、春闘です。去年は、官製春闘といわれ、労働組合の役割、存在が問われましたが賃上げは進んだ。だが、それは一部の業界や大手の企業だけでした。中小、零細には及ばなかった。今年は、どこまで広げられるのか注目したい。

二番目は、労働の規制緩和です。派遣法や労働時間の法改正がどうなるか、関心を持って見ていきたい。三つ目は、働き方の問題です。とくに2000万人を超えた非正規労働者の増加についてどのように歯止めをかけるのか、これらが今年の課題だ」と語った。

▼秋に会員名簿発行

総会は、規約により稲葉代表が議長となって議事に入った。まず、関西支部代表の玉泉孝次氏から関西地区の14年度の活動報告があり研究会活動、会報発行が活発なことが報告された。この後、中川隆生事務局長から14年度の労働ペン活動報告、林元夫会計幹事からは決算報告、山田行雄監事からは、会計監査の報告があり、それぞれ承認された。続いて15年度の活動計画及び予算案について提案があり、原案どおり承認された。予算提案の中では、昨年末の会員数は、199人、今年は200人超をめざすことが、また会報への広告掲載の強化、事務所利用の活発化による収入増加が強調された。また労働ペン会報の永久保存のための製本作業の着手と15年秋には、新たに会員名簿を発行するとの方針も示された。

▼新幹事15人を選任

役員については、25人の幹事のうち新たに以下の15人が選任された。

- ①代表代理小島正剛、長谷川真一、藤井紀代子
- ②副事務局長加瀬谷まゆみ

最後に労ペン賞の報告があり、大澤賢会員の『甦る被災鉄道－東日本大震災を乗り越えて』（東京新聞刊）が奨励賞として発表され、表彰式が行われ、14時半に総会は、閉会した。（夏目孝吉）